

第 33 回八王子市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日	時	平成 30 年 5 月 9 日（水） 10：00～11：45
場	所	八王子市保健所別館 1 階会議室
議	事	議 事 旭ヶ丘団地乗合タクシー試行運行について（乗合運行協議） 報 告 事 項 (1) 平成 29 年度の事業報告について (2) 平成 30 年度の事業について (3) 平成 29 年度はちバスの事業報告について (4) 事業者からの報告（各事業者） そ の 他

●議事

- ・旭ヶ丘団地乗合タクシー試行運行について（乗合運行協議）

【事務局説明】

- ・旭ヶ丘団地乗合タクシー試行運行について、事務局より説明を行った。

【主な意見、質疑】

（委員）

- ・地域の方々は、喜んでいと聞いている。以下の 3 点について質問したい。
 1. 団地内の高齢化が進んでいるということだが、若年層の人口割合はどのくらいか。
 2. 団地内の運行ルートを選定にあたっては、どのように検討したのか。
 3. 運賃を 300 円に設定したとのことだが、はちバスの運賃を参考にすると 200 円でもいいのではと感じるが、設定方法について教えてほしい。

⇒（事務局）

- ・若年層の割合は、アンケートの回答を頂いた方のうち 19 歳以下が 5%程度、20 代が 3%程度、30 代が 4.5%程度となっており、アンケートの回答者は 60 歳以上が 50%近くを占めている状況。
- ・運行ルートは、団地内でも最も幅員の広い道路としている。
停留所の位置については、当初、停留所を多く設けたい意向だったが、ある程度絞った方がタクシー会社との契約料金を抑えられることもあり、再度団地のみなさんと話し合った結果、利用が見込まれる団地入口と、団地内の高低差があることから団地中央の 2 箇所とした。
- ・運賃についても、アンケート結果を踏まえて団地の方々と協議し決定した。
アンケート結果では 200 円の回答が多かったが、地元は運賃と市の補助金で事業費を賄いたい意向があり、300 円程度にしないと、市が半額補助しても残りを運賃だけで賄うのは難しいと考えている。現在タクシー事業者と 1 運行の契約料金について協議中である。

（委員）

- ・住民の中には、自分の家のそばを走ってほしくないと思う人も出てくるかもしれないが、試行運行の結果を見ながら検討してほしい。
- ・運賃については、本格運行を見据えて 300 円という金額にしたのだと思うが、はちバスと比較した時にどうしても高めに設定されている印象になると思うが、どのように考えるか。

⇒（事務局）

- ・実証運行のルート設定については、試行運行の結果を見ながら地元の方々と協議し決めていく。
- ・はちバスとの運賃の差に対する考え方については、はちバスは市街化区域の交通空白地域のうち、ある程度需要の見込める地域を結んで運行しており、地域交通事業と同じ基準で考えるのは違うのではないかと考えている。今回の運賃 300 円については、試行運行の結果を見ながら地元の方々と

考えていく。

(会長)

- ・ 試行運行の開始時期と、運行期間はどのくらいを予定しているのか。
⇒ (事務局)
- ・ 6月頃に道路運送法 21 条許可申請を行い、試行運行は 9 月頃に行いたいと考えている。
- ・ 運行期間は、1 か月間(平日の 20 日間)行いたいと考えている。
⇒ (会長)
- ・ 地元の方々に認知されるまでにある程度時間がかかるので、運行期間は最低でも 1 ヶ月は実施した方が良く考える。

(委員)

- ・ 他の地域から要請があった場合について、どのように考えているか。
⇒ (事務局)
- ・ 今回は旭ヶ丘団地から相談を受けて、試行運行を行う形になった。他の地域でも交通空白地域から相談があれば、地域交通事業の導入を検討していきたいと考えている。
⇒ (委員)
- ・ 富士見町に住んでいるが、路線バスが廃線になった経緯があり、はちバスの要望も出したことがある。高齢化が進んでおり、今後、地域交通事業に関する要望が出る可能性があるのでその際には対応してほしい。
⇒ (事務局)
- ・ 町会等から要望があれば、地域交通事業の説明に伺う。

(会長)

- ・ 地域交通事業を行うにあたっては、旭ヶ丘団地のように地域の方々に関わっていただくことが前提となるのでご理解いただきたい。

(会長)

- ・ 試行運行から本格運行に移行するにあたっての判断基準はあるのか。
⇒ (事務局)
- ・ 地元からは、乗車人数は 2 人(定員の半分)以上、乗車率 50%以上を目標にやっていきたいと聞いている。試行運行の状況を見ながら本格運行に向けて検討したいとのことである。

(委員)

- ・ 運行の判断の際には、数値的な基準が必要になるのは理解しているが、収支率だけでなく本当に必要としている人が何人いるかを重視してほしい。
⇒ (事務局)
- ・ 本当に困っている人がどれだけいるかについても、試行運行を通じて把握し、本格運行に向けて地元と話し合っていきたいと考えている。

【本件については、事務局提案の内容で合意が得られた。】

●報告事項

- ①平成 29 年度の事業報告について
- ②平成 30 年度の事業について

【事務局説明】

- ・ 平成 29 年度の事業報告について、及び平成 30 年度の事業について事務局より一括で説明を行った。

【主な意見、質疑】

(委員)

- ・ 降宿醍醐地域の地域交通事業は3月で一旦停止したとのことだが、使われなくなった車両はどうしているのか。

⇒ (事務局)

- ・ 降宿醍醐地域は、地元と八王子市タクシー合同営業運営委員会が契約して運行していたので、地域交通事業に使用していたタクシー車両は、通常のタクシーとして使用している。

③平成29年度はちバスの事業報告について

【事務局説明】

平成29年度はちバスの事業報告について、事務局より説明を行った。

【主な意見、質疑】

(委員)

- ・ 富士見町は高齢化が進んでおり、東海大学病院へ行くルートにはちバスを運行してほしい。
- ⇒ (事務局)
- ・ はちバスは、いくつかの交通空白地域を繋ぐような運行をしている中で、現状では新しい地域を運行することは難しいという整理がされており、富士見町までルートを伸ばすことは難しい状況である。交通を検討する場合には、地域交通事業を行う選択肢もあるので検討いただければと考える。

(委員)

- ・ はちバスの運行基準について教えてほしい。
- ⇒ (事務局)
- ・ 現在のルートは、バス車両が通行できる道路幅員があるか等の構造的なことや、効率性などを踏まえて決めている。現行の北西部コースが富士見町に近いが、現在片道2時間以上かかり、定時制の確保が難しい状況があり、経費の問題なども含めて、はちバスでの対応が難しいのが現状である。

(委員)

- ・ 私の町会(小津町)は地域交通事業を行っている。市の補助を受けながら行っているが地域の負担も非常に大きい。一方で、はちバスは、幹線道路まで歩いて行けるような地域でも運行している場所がある。町会内でも本当に必要としている場所になぜ来ないのか、という議論がいつも上がっている。難しいとは思いますが、市としてもそのような意見も踏まえて検討してほしい。

⇒ (事務局)

- ・ はちバスは決して無料のバスではなく、シルバーパス乗車の割合は運行開始時1割ほどだったが、現在は6割以上となっており、負担の無いバスというイメージになってしまっている部分がある。しかし、負担の仕方については、今後議論が必要であると認識している。

(会長)

- ・ はちバスの費用負担は、東京都全体から見ても特殊である。一般の路線バスは、東京都のシルバーパス助成制度の補助を受けられるが、コミュニティバスは対象外となっており、シルバーパスの分は市が全て負担している。はちバスの収支率は、17.2%と非常に低いが、これはシルバーパスの負担が市の負担の中に入ってしまった為であり、事業費の8割強を市が負担している状況になってしまっている。
- ・ シルバーパスを使うといっても、一般の路線バスと、はちバスで、お金の出所が違うということを市民の皆様にご存知いただいたうえで、はちバスの今後の費用負担をどうしていくか議論していく必要がある。

- ・ はちバスの当初の目的は、路線バスでは対応できないところを補完し、複数の交通空白地域をカバーするという事で設定された経緯があり、道路幅員等の構造的な問題も踏まえていかに効率的に運行できるかということのせめぎあいの結果が現在の運行ルートになっている。どのようなルートにしていくべきかについても、今後の議論が必要と考えている。

(委員)

- ・ なぜ八王子市は特殊な料金体系になったのか。
- ・ 他市はどのようにして東京都のシルバーパスの補助を受けているのか。
⇒ (会長)
- ・ 他市のコミュニティバスは、シルバーパスが使えない。シルバーパスが使えているコミュニティバスは、路線バスの一環として市が一部を補助しているような場合のみであり、市単独で負担しているのは八王子市だけである。

(事務局)

- ・ はちバスは、交通空白地域を運行し収益が無い地域を走らせるため、市が補助金を導入しなければ運行できないことは導入当初から分かっていたが、どのような形で費用を捻出するか検討した際に、交通空白地域に高齢者も多いことから、当時 75 歳以上の方に毎年支給していた敬老祝い金を廃止する代わりに、はちバスを運行することとなった。その際、高齢者が利用しやすいようにシルバーパスを使えるようにした経緯がある。

⇒ (委員)

- ・ 敬老祝い金の経費と、はちバス運行の経費はどのくらいになるのか。
⇒ (事務局)
- ・ 当時の金額が分からないが、現在で敬老祝い金を継続していた場合 3 億円位、はちバスは 5 千万円位の負担で運行している。導入当初とは、高齢者の割合等も変わってきている中で、今後負担の仕方について議論していく必要がある。

⇒ (委員)

- ・ 単純に 2 億 5 千万円は、はちバスの運行に使えるのかと思った。

(会長)

- ・ 路線バスが走っている地域、はちバスが走っている地域、地域交通事業を行っている地域、交通の無い地域等色々な状況がある中で、それぞれの負担のされかたが必ずしも公平ではないということもあるが、今後交通手段が必要になってくることは間違いないので、はちバスや地域交通事業の在り方については議論していかなければならない。

(委員)

- ・ はちバスの運賃が 100 円の定額運賃だった時は、シルバーパスも障害者割引も使えなかったと思うが、その時の収支率の方が良ければ、その時の運賃体系に戻すのも一つの方法だと考える。
- ・ 収支率が他市に比べて非常に低いという状況は改善しなければならない。はちバスはこれだけ乗りやすくなってきているので、シルバーパス利用だった方も大人運賃と同様あるいは半額の運賃を支払っていいという方もたくさんいるかもしれない。

現在の運行状況を市民は知らないと思うので、収支率等の情報を市民に開示し、市民と一緒にやってより良い運行を作っていけたらいいのではないかなと思う。

⇒ (事務局)

- ・ ご意見のように、はちバスは収支率やシルバーパスの問題がある為、市民に周知する意味も含めて、今年度アンケート調査を行い、今後のはちバスのあり方を、市民に知っていただいたうえで、議論を深めていきたいと考えている。

(会長)

- ・ ご意見のように、市民へ情報を開示した上で、市民を交えた議論を進めていきたいと考えている。

④事業者からの報告（各事業者）

- ・ 京王電鉄バス、西東京バスより、資料に基づき報告事項の説明を行った。
- ・ 八王子市タクシー合同営業運営委員会より、口頭で報告事項の説明を行った。
旭ヶ丘団地の地域交通事業に向けて、市と一緒に、他事例の研究や、関東運輸局への相談等を行い、どのような運行が適しているか検討している状況である。
昨年度より、UD タクシーが増加しており、八王子市を運行している 500 台の内、約 30 台以上になっており今後も増えていく傾向である。

【主な意見、質疑】

(会長)

- ・ 西東京バスのラッピングバスは、何台あるのか？時刻表はホームページに掲載しているのか。
⇒ (委員)
- ・ 1 台で運行している。
- ・ 時刻表は、当初非公開としていたが、好評をいただき、問い合わせが多かったため、現在はホームページに掲載している。

●その他

- ・ 特に意見なし

●今後のスケジュールについて

- ・ 次回の「地域公共交通活性化協議会本会議」及び「案内サイン等検討分科会」については、日程や場所等はまだ決まっていないため、決まり次第別途通知する。

以上